

編集後記

静岡県立大学経営情報イノベーション研究科教授 藤本 健太郎

長期化する少子化による若年人口の減少と医療の進歩等による平均寿命の延伸とがあいまって、日本の高齢化は一層進んでいる。

総務省統計局の「統計からみた我が国の高齢者（65歳以上）－「敬老の日」にちなんで－」（平成28年9月18日）によれば、65歳以上人口は3461万人（平成28年9月15日現在推計）にのぼり、総人口の27.3%を占めており、いずれも過去最高となっている。他のG7諸国の高齢化率をみると、日本に次いで高齢化率が高いのはイタリア（22.7%）、ドイツ（21.4%）となっており、主要国の中でも日本では突出して高齢化が進んでいることが分かる。

高齢化の進行は様々な問題を社会にもたらすが、高齢者は持病等によって現役世代よりも受診率が高くなることから、医療は重要な課題の一つである。今回の紀要では、医療に関して2本の論文が投稿されたが、それぞれ、患者のライフスタイルが受療行動に及ぼす影響に関する研究と経営の悪化が課題となっている公立病院のガバナンスに関する研究の成果をまとめたものであり、超高齢社会における医療の在り方を考えるうえで興味深いテーマである。

また、もう1本の論文はソーシャルタグの分類に関するものであり、ニコニコ動画のデータセットから生じたタグ共起データを分析している。出現数上位のタグには初音ミクをはじめとしたボカロに関するワードが並んでおり、現代の日本社会の一側面を切り取る研究となっており、興味深い。ビッグデータの分析は健康づくりにおいても活用が始まっており、超高齢社会への対応を考えるうえでも重要なツールとなりつつある。

人口動態については、従来から課題であった高齢化に加えて、人口減少が大きな政策課題となっており、国においても自治体においても、人口減少対策は急務となっている。地域の公立大学の一つの責務として、引き続き、人口動態から生じる様々な課題に関する研究成果を紀要に掲載していきたいと考えている。